たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	71.4%
海外株式	21.7%
現金（円・$）	6.9%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	-7.4%
海外株式	-17.8%
現金（円・$）	31.0%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-6.8%	-16.4%	-8.1%	-9.8%	-2.2%	1410.47%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	93.1%
現金	6.9%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	71.4%
アメリカ	21.7%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
資本財・サービス	33.16%
一般消費財・サービス	21.17%
金融	13.83%
情報技術	10.58%
生活必需品	6.88%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	15.45%
2	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	11.74%
3	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	11.61%
4	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	10.09%
5	ヒューリック 3003	日本円	日本	金融	9.36%
6	ニップン 2001	日本円	日本	生活必需品	7.81%
7	ディップ 2379	日本円	日本	一般消費財・サービス	7.40%
8	マクニカHD 3132	日本円	日本	資本財・サービス	6.82%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	33.00%
5000億～1兆円未満	1.36%
1000億～5000億円未満	28.25%
1,000億円未満	37.39%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

今月の当ファンドは先月に引き続き一桁半ばマイナスの運用収益となりついに年初来でマイナスとなってしまいました。このような逆風が吹く中でもなんとかパフォーマンスが残せるよう取り組んでまいりました。

先月よりずっと捕まっていたレバETFの信用買いと日経平均先物の買いを月初の大底の1日手前で全て清算しました。当然リバったことから耐えてればもっといいところで売却できたわけですが、そもそも32000前半の三角持ち合いを抜けたところで損切りしておくべきトレードだったので言い訳のしようがありません。この取引による資産へのマイナスインパクトは数％程度となりました。

その他のトレードとしては下落局面でタカヨシを拾いましたがリバウンドが弱いことから損切りしています。保有銘柄ではウルトラファブリックスHDと太平製作所の買い増しをしました。決算狙いでは山崎製パンの好調ぶりと倉庫銘柄での稼働率増、各社の電気代の低下という文面からニチレイを買っています。

バリュエーションを検討しなおした結果とても売るような局面ではなかったため、ほぼ全ての銘柄を保有し続けて嵐が過ぎ去るのを耐えていた恰好となりました。下落局面でも投げるような銘柄を持っていなかったことはよかった半面、やはりルール違反でポジションを取っていた指数トレードで悔いが残ります。

保有銘柄の決算は11月が本番であるため来月は今年のパフォーマンスを決定づける重要な月になりそうです。悪い結果が出そうな銘柄は持っているつもりはありませんので、この決算期でなんとか挽回したいところです。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。